

## 令和6年度第2回調布市子ども・子育て会議 市の現状と課題について2グループミーティングにおける意見等

令和6年7月26日（金）実施

### 【グループ1】

#### テーマ「3. 調布市の動向」について

- 資料3のアンケート設問項目は、市だけか、区や市で共通した設問か。→国で決められた設問と市独自の設問がある。
- 子育ての情報入手先について、幼稚園サイドとしては園のホームページによる情報発信など努力をしている。児童館は未就学児がたくさん通われているため、児童館を経由した情報発信をしたいと思ってもNGの場合が多い。もっと間口を広げてもらいたい。
- 気軽に相談できる相談先の結果をみると、繋がる先のない親が多いようだ。市としての具体的な対策を期待する。
- 子どもが非常に多い地域であっても、子ども会や地域イベント、行事等になると子どもが集まらない。集まっても同じ子ばかりになってしまう。  
習い事や塾、共働きの家庭が増えたなど家庭の様々な事情で子どもを集めることが難しい状況がある。
- 今は、学校が終わったら塾に行くという流れもできているし、保護者も塾に入れていることに安心感を抱いているようだ。  
もっと子どもを引き付けるものがたくさんあるといいなと感じている。
- 以前と比べると、地域の子どもの対象とした行事や子ども会への参加は激減している。そのため、子ども会の縛りを無くして、学校に協力をお願いし子どもを集めるという取り組みを行っているが、参加できない保護者が多い。
- 自治会自体が無くなってしまっている地域もあり、コミュニティの力が弱まっていると感じる。
- 児童館を利用していない理由のところ、今後の取組み方針としてホームページ等による情報発信の強化というが、保護者は児童館のホームページは見えないこともある。他の情報発信手段も必要なのでは。

#### テーマ「4-1. 待機児童・一時預かり」～「5. 虐待防止」

- 資料3の32ページ「大切だと思う子どもの権利」についてのアンケート調査結果は、ほかの自治体との比較ができるか。→市独自の選択肢、設問による調査のため、比較は難しいかもしれない。
- 調布市子ども条例は現在、どのような形で周知されているのか。→調布市子ども条例は平成17年にできたもので、条例ができた当時はパンフレットを配布していたが、今は子育て支援情報誌「元気に育て！！調布っ子」への掲載、市のホームページ、出前講座を行っている。今後は

リーフレットを小学校の低学年用・高学年用・中高生用・保護者向けといった世代別に作成し、学校等を経由して児童・生徒、保護者などに配布したいと考えている。

- 子どもの意見の尊重の部分で、意見を言えていないという子どもがいるが、その掘り下げが必要ではないか。→言えていない場合、どんなときに言えていないかという設問を設けているが、現在集計中のため今後掘り下げていく。
- 地域交流という部分で、子育て世帯にどれだけ地域交流が求められているのかが疑問。→地域交流を求めている家庭に、活動内容を周知して、参加したい方に参加してもらえるような取組が必要と認識。
- 孤立した子育てを行っている保護者において、幼稚園というのは保護者同士のつながりの場としての役割もあるのかなと思っている一方で、幼稚園への問い合わせとして（行事など）保護者の関わりがどれくらいあるかを聞かれることがあるため、あまり負担や関わりが多くない園が選ばれる傾向もある。
- 地域全体で育てたいという保護者は多いようだが、自分が参加してまでという保護者は少ないのが現状ではないか。→理想と実際に参加しての負担を考えたときにどうかなど、いろいろな要因があるのではないか。
- 子どもの権利については多くの地域で似たような取組をとっているのではないか。ただ、子どもの意見の聴き取りは非常に難しい。乳幼児等にも声はあるはずでそれをどう受け取っていくか。
- 資料3の34ページの「子どもの権利を守るため必要な仕組み」では、家で教えるという選択肢はないのか。→今回の調査では選択肢なし（類似として「大人に子どもの権利について伝える」という選択肢から子どもの権利を知ってもらい家でも話し合う、教える、意識するなどの意図あり）。
- 保育園として地域交流したいと思っているが、地域交流としてどういったことが行われ、どうしたら地域交流になるのか、どうしたら地域と関われるかが知りたい。→園によって、運動会、餅つき大会などイベントをやる際に地域の方に協力や交流しながらやっている園もある。また、地域でやっている行事に園側が参加するのも1つ。

## テーマ「6-1. 幼稚園・保育園」～「7. ひとり親家庭・貧困」

- 保育・教育の利用条件、特に幼稚園は給食、預かり保育の充実、アクセス、園バス、親の負担などが大きくハードルは高い。
- 幼稚園のことはよくわからないが、情操教育に良い影響が期待できる。共働きは保育園の利用意向が高い。就学前の教育・保育は昔と比べると充実していると思う。
- 資料3の52ページ「(6) 保育園・幼稚園における配慮を要する子どもの受入れ状況」のところで、課題として「集団生活における児童の処遇向上」とあるがこれはどのようなことを指すのか分かりにくい。集団の中で保育、加配の先生に必要な支援していただけることで、その子どもの力が上がっていけばいい。

- 資料3の50～51ページでは、病児・病後児保育の利用意向として「利用したいと思わない」が多くなっているが、市としては利用推奨するような印象があり違和感がある。→利用したい方が利用できるような周知、環境整備が重要。
- 配慮を要する子どもの受入について、入園後に配慮を要することがわかるケースがある。また、同配慮していく必要があるのかも判断が難しい。加配申請には子どもに対する診断書が必要で、保護者からの診断書の提出に手間取ることが多い。理想と現実のギャップがある。
- 資料3の60ページ「この1年間で経済的理由のために見送ったもの」として、「あてはまるものはない」が非常に多いことが気になった。

## テーマ「8. 子ども・若者の居場所・相談」～「9. 母子保健・食育」

- 資料3の95ページ「②社会的課題について」では課題として薬物依存、ゲーム依存、発達障害などの問題について併記されているが、内容に違和感がある。また、障害児が増加しているとの記載があるがその根拠が示されていない。→小学生年代で、放課後デイサービス・学童クラブの利用が増えている。
- 資料3の89ページでは引きこもりに関する現状と課題に言及しているが、引きこもりに対するネガティブな評価に基づいた記載内容になっている。必ずしもネガティブではないという視点も必要だと思う。
- 資料3の77ページではあそびバを利用・登録していない理由についてのアンケート結果が紹介されているが、「つまらない」という回答が一定数ある。  
ただ、あそびバはプログラム（遊び）を与えるのではなく、自発的な遊びを促すもの、環境にすべき。そのための専門職が必要になるが、特に学童期の子どもたちにとって大変重要な視点だと思う。
- 市内の公園は、遊具はあるものの何をして遊べばよいかわからない。ボールを使用できない場所が多く遊びが制限される。本当に子どもが遊び込める環境をつくるためにはどうするか公園について、考えるべき。

## テーマ「9. 母子保健・食育」

- 昔、子育ての際は訪問でお世話になったが、いつまで甘えていいのか分からなかった。明確にすると良いと思う。→妊娠したところから、出産・子育てまでの支援体制を構築している。市民のご意見を参考にしながらニーズに沿った関わりを続けていきたい。
- むし歯のない3歳児の把握はどの様にするのか。→集団健診で背景を探る。問診票から親に課題があるか子どもに課題があるかある程度わかる。虐待等も含め子ども家庭センターすこやかと連携。
- 予防接種、歯科健診の事前連絡が親の自覚に繋がっている。自分の頃と違って安心。
- 資料3の98ページ「もうすぐママ・パパ教室実施状況」で、参加者の男女比率はどうなっているか。→同率くらいとなっている。

## 【グループ2】

## テーマ「3. 調布市の動向」について

- 結婚することをためらう理由として、結婚や子育てに対する経済的負担や不安を感じていることがわかった。一方で調布市の取組については、子育て環境や支援への満足度が前回から上がっていて満足・やや満足で6割以上と高い結果が出ていることから一定の評価が出来ると思う。市として満足度が上がった部分を分析してもっと伸ばしていけば結婚率や出生率も回復していくと思うが、どう捉えているか。→（ようこそ調布っ子サポート事業や医療費助成，児童手当，保育料の無償化（3歳以降や第2子以降），小・中学校の給食費無償化など）少子化対策の1つとして経済的支援は市としても行っているところですが，一時的でなく恒常的な経済的支援となると国や東京都も関わってくる話になるので難しい部分もある。そこで市単体として何が出来るのか考えたときに，子育てしやすい環境づくり，子育て施策や支援，サービスを充実させていくことになると思っており，そういった部分で子育て環境や支援の満足度について一定の評価を頂いているのかと思う。第3期のプラン策定に向けて，子育てしやすい環境づくりを大事にしつつ，3割程度の方の不満という回答について改善していかなければと感じている。
- 学生などこれから結婚や出産を考える人たちが，少子化，経済的厳しさ，実質賃金が上がらないなど何に不安を感じるかを子育てしやすい環境づくりをする中で直接意見を引き出せるような取組が重要ではないか。
- 子育てに関する情報入手先はインターネットが多いかと思うが，コサイトや市の子ども向けのホームページなどすごくいいと思って見ていたが必要な情報にたどり着きやすい情報提供手段関わりをしていくとよい。
- 親世代等があれこれ話し合うことではなく，実際にこれから結婚や出産を考える世代の人が情報交換や意見を言える環境が大事。子どもや若者の価値観で意見交換できる環境が大事ではないかと感じている。
- 今はSNS，オンラインゲームなどオンラインでのつながりがいっぱいある世代ですが，オンラインでない，子ども・若者が孤独を感じないよう，直接人とつながり，交流できるような機会，地域それぞれの交流の場，例えば児童館，CAPSなどを拠点に世代間の交流ができたり，若者が交流できたり関わりを増やしていくことを市として社会として考えていけるといい。
- 経済的負担が子どもを育てることの課題になっているのかと考えると，保育料の無償化，公立の小・中学校に行くなど，本来お金は既にかからないはず。その中で経済的負担を感じるのは，それ以外に習い事，塾に行くことや私立の学校に通わせることが選択肢にある環境が影響しているのではないかと。経済的負担がかからない選択肢がある中で，具体的にどこに経済的負担を感じているか，負担がかからない選択肢を選ばない理由などあるか。→ニーズ調査結果からは読み取れないが，経済的負担と合わせて，将来の教育費の負担も課題となっており，大学など文系，理系，医学部，薬学部に行くのか，子どもが進みたい道に進めるように漠然とした負担感もあるのではないかと。また，教育費だけでなく，食費，衣服費など日々かかるお金，他県に比べると東京都は私立中学受験など多いのではないかと。

- 東京都の中で私立の学校に通うのは4人に1人程度。保護者としては、子どもの将来にどう道筋をたててあげるといところからお金の不安、経済的不安も大きいのではないかと思う。また教育費は削りにくく、市内でも中学受験をされる家庭は増えてきて、教育費にお金をかけている家庭は多いのではないか。

## テーマ「4-1. 待機児童・一時預かり」～「5. 虐待防止」

- 子どもたちが自分の思っていることを発信できる場が少ない。他者の意見を聞くことで新たな発見があると思うので、調布っ子ミーティングのような取組はとてもいいと思った。
- 今後も子どもが自分の意見を発信する場を設けていただきたい。
- 調布っ子ミーティングに参加したことは有意義な時間だったと思う。→調布っ子ミーティングは実施することができたが、応募者は少なかった。市立小・中学校の児童・生徒向けに「すぐーる」での配信や掲示、配架、1人1台端末での周知依頼、市報、市HP、SNS、市内公共施設での周知などできる限りの周知を行ったが集めるのが難しかった。前のグループでも今の子どもは塾や習い事に行っている子が多く、地域のイベントにも人が集まらないとことで、そういった背景も関係しているのではないか。
- 調布っ子ミーティングへの参加者数が多ければいいというものでもないかもしれない。人数が多いと意見を言えなくなってしまうかもしれないので、少ない人数でも最初としては良かったのではないか。初めの一步として実施できたことが大切。
- 資料3の35ページで「お家や学校、大人などに自分の意見や思いを言えていますか」というアンケート調査について、言えているという意見が多かったことはうれしく思う。一方、言えていないという意見が1割いるということも受け止める必要はある。
- 意見を言える子どもたちが多く、学校や地域などに出向いて開催するのもよいのではないか。調布っ子ミーティングのテーマ自体を子どもたちが考えて実施できると、より子どもの意見を集められるのではないか。
- 深大寺にも子ども食堂があって、有難いことではあるが、増やしていくことがいいことなのか、増やさない社会を作っていくことがいいことなのかというジレンマを感じるが、市としては、これについてどういった姿勢で取り組んでいく方向か。→子ども食堂はもともと子どもの食の支援から始まっているが、今はその役割が地域交流の場であったり、子どもの居場所であったりと広がってきていると感じるので増やす・増やさないと判断が難しいが、市内で子どもたちが来られる範囲にあるといいと思う。
- 調布っ子ミーティングについて、ネットでやり取りできる時代となっているが、直接意見交換できる場があるといいなと思った。

## テーマ「6-1. 幼稚園・保育園」～「7. ひとり親家庭・貧困」

- 保育園の土日等の利用に際し、保育士の働き方の改善を見据え、輪番制による保育園の開園などにはどうか。そのためには、保育士の理解促進・処遇向上、ワークライフバランスを踏まえた取組が必要。

- 病児・病後児保育について課題が挙げられているが現状を教えてください。利用されていない理由等を把握する必要があるのでは。→病児・病後児保育は調布に1施設、つつじヶ丘に1施設あり、利用するには市のホームページから電子申請による事前登録（登録者数は令和5年度は700人くらい）が必要となっている。対象は満1歳から小学校6年生までで、午前8時半から午後5時まで、平日の月曜日から金曜日に開設、利用料は1日2,500円。利用当日は施設の医師の診察を受けて利用。日に2人程度利用しており、利用率は半数弱。事前の予約が必要であるため、その日にいきなり行きたくても行けないというのが利用しにくいのではないかと。利用しやすい環境の検討が必要と認識。
- 利用者登録はパソコンから可能か。周知方法は？→パソコンやスマートフォンによる登録が可能。保育園の入園案内、子育て支援情報誌「元気に育て！！調布っ子」、市ホームページ等にて周知している。
- 病児・病後児保育の利用については「利用に際し不安・抵抗がある」という方が50%以上であるが、病気の子どもを預けるということに対する抵抗といった意味で、気持ち的に利用しづらいという部分が1つ大きな理由でもあるのではないかと。必要があって、どうしても利用したいときに利用できる仕組みであればいいのではないかと。また、子どもが病気の際に親が休めるようなワークライフバランスの観点から、企業体制、環境も変わってきているのも利用率に関係しているのではないかと。一概に仕組みの問題ではないと思う。利用に際し、当日に何か対応できる仕組みが今後できると良いと思う。

## テーマ「7. ひとり親家庭・貧困」

- ひとり親家庭の学習支援事業ここあの伸び率が大変大きく需要がある。

## テーマ「8. 子ども・若者の居場所・相談」～「9. 母子保健・食育」

- 児童館がつまらないと感じている子どもがいることについて、児童館のアピールが足りないと感じた。楽しいと思われるようにアピールしたい。
- 資料3の87ページで中高生、高校卒業年代含めて孤独であると感じるというのが4割とアンケート結果が出ていて高い。ここあの事業や相談機関の認知度が低いことからそもそも支援・相談体制を知らない子どもが多いので、そこは改善しなければいけないと思う。
- 引きこもりの要因について、引きこもりの要因は家庭、本人を含めた複合的、様々な要因がある。それを関係機関、学校などが努力して、学校に居場所がつかれないか、必ず関わりのある人をつれないか、何も学校だけではない居場所はないかと居場所づくりに努めている。
- 相談機関の認知度について「知らない」という回答が多いが、知らなくても問題ない人より、困っているが知らない人は把握しているか。→そこまでの把握はできていないが、様々な方法で相談機関の周知を図っていきたい。
- ここあの周知などは一定程度行なっているが、不登校生徒等にも周知されるような取り組みが必要だと思う。また、LINEなどのSNSを活用した相談窓口は早く実施されるといいのでは。

- 資料3の69ページで低学年時の子どもの居場所として調布市学童クラブのニーズが高くなった理由は施設を増設してきたこと以外に何かあるか。→共働きの割合が高くなっているなど働き方や景気の変動の影響もあると思う。子どもが減っているなかで目が届くところに預けたいという意向も反映されていると思う。

## テーマ「9. 母子保健・食育」

- 資料3の96ページに記載の「ゆりかご調布面接」について、実施率は100%か。面接できない家庭にリスクが高いと言われているが。→100%に近い値で推移。経済的支援、オンライン面接などにより割合は上がっている。面接できない家庭として、つわりなど体調面から面接が受けられないという方が多い。まれな対応ではあるが、出産直前に分娩の相談を受けたため、実施できないこともあった。
- 出産迎える家庭は核家族が多い。産後ケア事業やショートステイ事業など若い人に産後に利用できる制度が広まるといい。